令和６年１１月　市長定例記者会見

令和６年１１月１日(金)

午後　１　時３０分　開始

【広報広聴課長】　ただいまから記者会見を始めさせていただきます。

本日、発表項目につきまして、一般事業発表項目を１件追加させていただきました。追加した次第とプレスリリースを机の上に配付させていただいております。恐れ入りますが、次第の差替えをお願いいたします。

また、昨日データでお送りしました、つるが環境フェアのチラシにつきましても、現物を配付させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】　まず冒頭の挨拶として、敦賀マラソンのことを申し上げたいと思います。

先月の２０日になりますけれども、天気も本当に秋晴れの天気で、第４３回敦賀マラソン大会を開催することができました。県内外からトータル１，８８０名の参加者をお迎えしまして、敦賀の名所であります気比の松原、それから港の周辺を楽しく走っていただいたと思っています。ご参加をいただいた皆さん、それからご協力をいただいた皆さん、交通規制などにも協力をしていただいた市民の方にも心からお礼を申し上げたいと思います。

今ちょうどスポーツの秋にふさわしい気候になってきていますので、また市民の皆さんにもスポーツを楽しんでいただきたいと思っています。

それから本日は、令和６年度の市政功労者の表彰式を行いました。それぞれの分野、お立場で長年にわたりご活躍をされました３名１団体の方々に表彰式を行わせていただきました。いずれも市政の発展に大きくご貢献をいただいたと思っております。これまでのご尽力に対して心から感謝を申し上げたいと思います。

それから、今月の９日、１０日に、敦賀市の総合防災訓練を行います。これは敦賀市の地域防災計画に基づきまして初動対応の確立、防災体制の確認などを行うとともに、地域防災力の向上を図るということを目的にしまして、防災関係機関、それから地域住民の方々とともに実施するというものです。

今回は大規模地震による災害を想定して行います。災害が起こった場合にも訓練を生かして迅速に、的確に行動ができるように、しっかりと訓練を行っていきたいと思っています。

また、現在、各地区で市長と区長と語る会を行っています。昨日までで５地区終えました。今日の夜もあるので今日の夜で６地区ということになるんですけれども、本当に地域に密着した課題、それから市政へのご意見など、結構フランクな感じでいろんなご意見をいただいております。参考になるお声もたくさんいただいています。引き続き、区長さん、それから市民の方々と対話して、ともに敦賀のまちづくりを行っていきたいと思っています。

冒頭の私からの挨拶は以上です。

【広報広聴課長】　本日は市長からの事業発表はございませんので、フリーの質問対応に移りたいと思います。

【記者】　先日終わりました衆議院議員選挙について、現職が落選し新人が当選となりました。受け止めと、今後の影響があるとすればどういったところに出てくるか、教えてください。

【市長】　私、選挙に向けても、皆さんご承知のようにお話する場面もあったんですけれども、これまで衆議院議員をされていました高木先生には本当に様々な面でご尽力をいただきました。まさにパイプという形で敦賀とそれから国政のほうをつないでいただいたとに思っています。

本当にそういう意味では感謝もしておりますし、ある意味これまで頑張っていただいた高木先生というパイプを失ったことになります。それに対して我々は現実対応をしていかなければなりませんので、我々なりに頑張ってやっていくということです。

それから当選された、新しく議員になられた方々には、本当に地元のために、敦賀、嶺南、福井のために、それから日本のために頑張っていただきたいなと思っています。そういう意味では我々と思いは同じだと思いますので、またコミュニケーションを取りながらやっていくことになると思っています。

【広報広聴課長】　それでは次に、各社よりお願いいたします。

【記者】　先ほどの質問に合わせてなんですけれども、辻さんが小選挙区のほうで当選されたと思うんですけれども、原子力政策については、やはり高木さんのほうが寛容というか積極的に取り組んでいただいていたと思います。それに対して辻さんは少し厳しい立場になると思うんですけど、今後は要望活動であったりとか原子力政策についてどのように働きかけていきたいかなどお願いします。

【市長】　おっしゃるとおり高木さんは、これまでも原子力政策については基本的には推

進という立場で、原子力行政自体に対する造詣も深かったと思いますし、また我々、全原協の活動をしていますけれども、その活動の内容などについてもご理解が深かった、ご支援もいただいていたということで、そういう意味では今回の選挙の結果というのは、そうした面から見ると少し残念だったなというところは正直あります。

辻さんのほうは、立憲民主党ということもあって、原子力政策については今後また辻さんとも意見を交換する場面があるかと思いますけれども、それを踏まえて我々としても原子力政策における地元国会議員の方との活動など、そういうことについては考えていきたいと思っています。

まだ正直、例えば政権の枠組みなどが決まっていないので、これからどういうお立場で当選された方々が動くかというのが分かりません。枠組みが決まってくると、全体としての原子力政策も決まってくるかと思いますので、議員になられた方々の個人の意見というものも踏まえて、今後のことは対応していけたらなと思っています。

【記者】　重ねて、かぶってしまうかもしれないんですけれども、嶺南のほうには原子力発電所が多く立地しているというところで、やはり与党であったりとか自民党の政治家を失うというのは嶺南地区にとってはどういった意味があると思っておりますでしょうか。

【記者】　今申し上げたとおり、これまでの実績を考えると、本当に痛手だと言ってもいいと思います。我々はどうしてもこれからのことを考えていかなければいけないということで、当面、自分たちなりに頑張らなければいけないと思っています。

それから、選出された方、辻氏ですけれども、やはり福井２区を選挙区としている限り我々にとっては地元の議員ということにもなりますし、エネルギー政策についても国策としてのエネルギー政策、それからその中で原子力をどうするのか、それから地域にとって原子力発電所というのはどういう存在なのかということは本当によくお考えもいただいて、責任を持ってそういう政策に取り組んでいただきたいと思っています。

【記者】　原発で１点お伺いします。地元福井２区の話もそうなんですが、国政全体で見ても自公が過半数割れということで、年度内、エネルギー基本計画の改定も控えている段階だと思いますが、全原協の会長としてもそうですが、これの懸念であったり、今後どう進めてほしいか、国に注文などありましたら教えてください。

【市長】　エネルギー基本計画については、昨日の新聞にも、時期についても出ておりましたけれども、取りまとめをこのタイミング、今年中でやるというのは、そういう形でスケジュール的には進んでいくんだろうと思っています。

やはり中身ということで言うと、岸田内閣のときにできたＧＸの基本方針、それからその法律と今の第６次のエネルギー基本計画というのは、そごがある部分があると思うので、そこを解消するというのが一つ大きい題目、テーマになってくると思っていますし、そういう意味ではすごく注目しています。

ただ、今確かに政権の枠組みなどの影響を受ける可能性もあるんですけれども、基本的な、例えば世界の情勢、エネルギーの情勢、エネルギー安全保障と言われるものを考えたときには、ＧＸの基本方針が、日本のエネルギー政策として基本的にそちらの方向だと思っていますので、エネルギー基本計画、新しいものについても、その路線で行くというのがいいのではないかと思っています。

もう一つ言うと、リプレースにしろ新増設にしろ、次世代革新炉というものが新しい商業炉として２０３０年代ということが言われているんですけれども、そのスケジュールだったりとか、それに向けて規制だったりとかファイナンスの問題がどうなるのかとか、そういうことが盛り込まれると、より具体性のある、実効性のある計画になるのではないかというところを期待しています。

【記者】　あともう１点、福井２区で高木氏が落選ということで、北陸新幹線についてなんですけれども、一応これも与党・自民党で進めてきたという経緯があると思いますが、そこに関して受け止めというか懸念などがあれば教えてください。

【市長】　当選された方々、当選翌日の新聞を見ていましても、北陸新幹線については、小浜・京都ルートで基本的に皆さん一致されているというところで一安心したところです。やはりそのように進めていただきたいですし、個人の議員それぞれの意見を国政のほうにも反映していただけたらと思っています。

【記者】　衆院選絡みで一つ。当選された辻氏、先ほど少しご言及ありましたけれども、今回、政治と金の問題での逆風というのが自民党の候補にはあるというのは最初から分かっていたわけですけれども、どなたがそれを取り込むのかというところは一つポイントだったのかなと思います。割れれば正直、現職の方にもチャンスはあるという中で、辻氏が取り込まれた要因について、選挙戦を見ていて市長はどのようにお感じになりましたか。

【市長】　そうですね。票だけ見ていると、取り込んだということなのかどうなのかというのはよく分からないんですけれども、もともとの基礎票などを考えたときに、どれだけ取り込んだという分析、私はそこまで一生懸命やってないので分からないので、まず取り込んだという表現がいいのかというのは少し思っていますね。

結果として当選されたということで言うと、やはり組織力というのが辻氏の場合はすごくあったんだろうなと思いますし、あと、私から見ると、選挙の在り方としてこれでいいのかなとは思いましたけれども、やはり政治資金の不記載の問題が一番の争点になってしまったというのが大きかったんだろうなと思っています。

前の記者会見で申し上げたのが、私、どっちかというと、これから日本、さきほどエネルギー政策の話もありましたけれども、例えば社会保障の問題をどうするのかなど、すごく今回期待していたんですけれども、論戦として。それがほとんど分からなかった選挙になってしまったので、それはすごく残念だと今回選挙の印象としては思っています。

【記者】　今のお話ですと、政治資金の問題が争点になってしまったというのと、取り込んだという表現が正しいのかというのは、少し矛盾すると思うんですが。

【市長】　政治資金の問題があって、片方の票が減ったということは事実だと思うんですね。それが取り込んだということになっているのかどうかということは、私は分からないという意味です。

【記者】　あと１点、先日会見された、自死された職員のご遺族から少しいろいろお話を聞いていると、とにかく市の対応が遅いということにまず物すごく不満を持っていらっしゃるそうです。真摯に対応というところで言うと、市長はそのようなコメントを出しておられましたけれども、一番の望みは早くということですから、全然真摯な対応ではないと思っているんですが、その辺についてはいかがでしょうか。

【市長】　我々は遺族の方と面談も、私も入ってやっていますし、私が入ってない場面でもいろいろ連絡はもちろん取り合ってやっています。そのスケジュールの一つ一つも相談しながらやっているので、記者さんとお話するときにそういうお話が出たのかもしれませんけれども、我々は直接そうやってお話をする中で、少し遅いのではないかということは今のところは聞いてないんですね。

また、次お会いするタイミングというかスケジュールも決めていますし、さきほどいただいたお話も少し耳に入ってきているので、どうですかということは我々のほうからも確認したいと思います。

基本的には、我々としては真摯に対応させていただいているつもりではいるんです。ご遺族の受け止めとして、我々に直接言えないけれどもそのように思っていらっしゃるということもあるかもしれませんので、それについてはしっかり確認して、ご意向なども尊重しながら、やっていきたいと思っています。

【記者】　関連してですけれども、ご遺族の意向としては、全職員に対して、敦賀市役所にハラスメントがないのかどうかという調査をしてほしいということなんですが、理屈から言うと、まず現時点でハラスメントがあったと認定されていない中で、全庁に広げるというのは何らかの判断が必要なんだろうとは思っていて、その辺のところは市に任されるところ、また公金も多分使うことになるでしょうから一定の判断が必要だと思うんですが、その点、市長は今のところどういうふうに整理されていますか。

【市長】　今回のこともちろんありましたし、また、ご承知かと思うんですけれども議会でもハラスメントのことが取り上げられるということがありましたので、今回のこともあったということもありますけれども、これにかかわらずところいうところでハラスメントには力を入れてやっていかなきゃいけないということは、ほかの市町もそうですし、敦賀市も心新たにそういうことに取り組んでいくということを思っていますので、ご遺族の要望というのもありというところで、そういうところには取り組んでいきたいと思っています。今のところ、やる方向で検討はしています。

【記者】　先日、国土地理院から、もんじゅの敷地内で推定活断層が疑われるというか、そういったような発表がありましたけれども、敷地内では今、廃炉作業も進んでいます。試験研究炉の計画もありますけれども、今はまだ推定という段階ではありますけれども、そちらの計画に与える影響等、市長のお考えをお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】　推定活断層というものの定義というのが、地形的な特徴により活断層の存在が推定されるが、現時点では明確に特定できないものというもので、今のところまだそういう位置づけなのかなと思っています。

もんじゅの敷地については、今おっしゃられたとおり廃止措置が進んでいて、もう一つは試験研究炉の計画がありますが、廃炉関係については、規制委員会の山中委員長も、今のところは特に大きい問題があるということには思っていないというニュアンスの発言をされております。ただ規制委員会の中でも、状況の確認ということは改めて行っていきたいと言われていますので、規制委員会の対応というのを注視していきたいと思っています。

それから、新しい試験研究炉について言うと、いずれにしろ設置許可申請がなされて、それで規制委員会で審査が行われるということですので、この推定活断層の取扱いがどうなるか分かりませんけれども、そういった中で、審査の中でしっかりと議論されて安全性が確認されるという、安全性を確認していくというプロセスをしっかり取っていただければいいかなと思っています。

【記者】　もう１点、先ほどの話、また衆院選のほうに戻して恐縮なんですけれども、高木氏との国政とのパイプということで、市長も選挙期間中も強調されていましたけれども、今、市内でも港であったり多々いろいろプロジェクトが進んでいますけれども、そちらの進捗等に与える影響等については、現時点ではどのようにお考えでしょうか。

【市長】　私もお話しさせていただいて、皆さんもその場にいらっしゃった方もこの中にはいらっしゃるとは思うんですけれども、本当に今までそういった意味ではご尽力をいただいていたというところなんですね。

今動き始めているものについては、しっかりと計画どおりやってくださいということでいいのかなと思っています。

これから進めていかなければいけないもの、これから具体的に言えば、例えば事業化しなきゃいけないもの、予算をつけなきゃいけないものについては、先ほど申し上げましたけど、当面の間は我々も自分たちなりにしっかりと頑張って、自分たちの地域のためにやらなきゃいけない事業とかそういうことについて、遅くなることがないように頑張っていかなきゃいけないと思っているところです。

【記者】　今の話に関連しまして、これから新たな予算化とか事業化の話になると、今度は高木氏に代わって新しい地元の議員とのコミュニケーションも大切になってくると思うんですが、今後、新議員とはどういったコミュニケーションを取っていかれるようなお考えか、お聞かせください。

【市長】　なかなか今までそういう体験がなかったので、どうするのかなと思っているんですけれども、いろんな場面でご一緒することがあると思うんです。その中で自然とこれからつながりというのも生まれてくるのかなと思っていますので、その上で、先ほど言いましたけれども、いろんな考え方とかそういうことについても知ることもできるでしょうし、そうした上でのこれからお付き合いになっていくのかなと。

これも繰り返しになりますけれども、やっぱり福井２区で選出された議員ということになりますので、いろいろ我々も伝えるべきことを伝えて、我々の抱えている課題だったりとか、将来こういうことをやっていきたいんだとか、そういうことをお伝えして、それを国政に反映していただくということは、これは民意で選ばれた議員の一つの役割だと思いますので、その役割を果たしてもらうべく、我々もコミュニケーションをそれこそ取ってやっていくということは思っています。

地元のためにやることは何としてでもやっていきたいと思っていますので、そこら辺は

今後選ばれた方と協調する場面もあるでしょうし、そういう形でやっていくのかなと思っています。

【記者】　それと、順番が前後して。先ほどの関連、新試験研究炉のほうの関連なんですけれども、この前コンソーシアム会合もありまして、副市長も市としてのご意見を述べていらっしゃったかと思うんですけれども、今回、推定活断層の問題が新たに浮上してきましたけれども、改めて新試験研究炉への敦賀市としてのご期待を一回お伺いしておいてよろしいでしょうか。

【市長】　試験研究炉については、例えば日本全体でいうと、原子力人材をどうつないでいくのかという話があって、その中で熊取の試験研究炉が廃炉になりますと。どうしても間隔が空いてしまうんですね、新しい新試験研究炉ができるまでに。その間、新しい原子力人材をトレーニングする場が西日本側にないということになりますので、日本全体を考えたときにもこの新試験研究炉の果たす役割は大きいと思っています。

今度地元のほうで言いますと、この研究炉ができるに当たって、地元から結構要望しているのが幾つかあるんですけれども、やっぱり産業への応用性というか汎用性みたいなものを今言っていまして、そういうことに使えるような、そして敦賀、嶺南地域に例えば放射線を使うような産業、ＲＩを製造するようなものとか、具体的にはそういうことも言われていますけれども、あるいは中性子利用だとか言われていますけれども、そういった産業が生まれてくればいいなという話が一つ。

それともう一つは、この試験研究炉ができるに当たって、サテライトキャンパスをつくったらどうかという話があって、それについても今のところ前向きな反応をいただいているんですけれども、そうなるとアカデミアのほう、学生さんも先生もそこに集って研究することになりますし、企業研究者とか、あるいは今の原子力の事業者関連の方々とか、そういうところが集う場が一つできるということになりますので、そういうところが生み出す効果というのも我々が期待しているところで、そういった取組を敦賀市もしっかりと支援していきたいと思っています。

【記者】　敦賀市としての支援、具体的にどういったことを考えていらっしゃいますでしょうか。

【市長】　試験研究炉をつくるということについて、具体的に我々ができることというのは限られてくるかなとは思うんですけれども、先ほどのサテライトキャンパスをつくるということになると、何か一定、役割があるのかなと。まだそこは全然話として具体的に詰

まってはきてないので、具体的にこういうことを市としてやっていくんですよという話は今のところまだないんですけれども、サテライトキャンパス、場所のこととかもまだ決まっているわけではないんですが、そういうことも含めて、場所のこととか、あるいは中身がどうなるのか、そういうところについては、市は意見も言いたいですし、また、そこで付帯して何かをくっつけるとか、そういうことも考えられるかとも思いますので、そこら辺はこれから相談していきたいと思っています。

【広報広聴課長】　それでは、以上をもちまして市長定例記者会見を終了いたします。

午後　１　時５８分終了